

西南戦争の記憶 ～ 瓦舗装道 ～

旧福島邸があったこの中村の地は、赤江港を拠点として大阪との交易を行い豊かな経済成長を遂げた城ヶ崎と並んで栄えた町でした。城ヶ崎の繁栄を「赤江城ヶ崎や撞木の町よ 鐘(金)がなければ通られぬ」と謡った流行り歌が残っていますが、中村の町もまた同じように多くの人々にぎわったと伝わっています。

福島邦成が生きた時代は、我が国が江戸から明治へという新しい時代の扉を開き、近代国家への礎を固めていた時代とも言えます。「四民平等」「文明開化」といったこの時期を新しい世の中に変わり、庶民の生活にも新しい時代を生きる活気にあふれていました。

そのような時代の機運の中、西郷隆盛を盟主として明治10年に起きたのが西南戦争でした。

同年2月に蜂起し鹿児島から進軍を開始した西郷軍は、人吉を経て政府軍の鎮台が置かれていた熊本城に至ります。この熊本城の攻防、次いで田原坂での攻防にも破れ、西郷軍は九州山地を南へと下る一時退却を余儀なくされます。そして再起を期して人吉から東進し再度北上を開始します。その途中、4月末から7月末の間は宮崎の地を拠点とします。

次の2枚の錦絵は明治10年9月にいずれも東京の地本問屋から発売されたものです。

1枚目は「鹿児島賊将 日向於中村遊興之図」と題された錦絵で、西郷隆盛、桐野利秋、別府新介の3人が描かれています。また、興味深いのは題に「中村」の地名が記され、3人を「賊将」という言葉で表現している点です。



鹿児島賊将 日向於中村遊興之図

楊洲斎周延//画 柳々子仙果//[文]『鹿児島賊将日向於中村遊興之図』,山村金三郎,明治10. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1307931> (参照 2025-02-26)

皇国の英傑四物とよ
ばれし源の義つね新
田義貞木曾よし仲
などいづれも婦人に耽り
たり茲に西南の賊
魁西郷隆盛○桐野
利秋ハことに婦人を
深く愛し陣中へ妾を
めしつれ亦日向へ退ぞき
し日も延岡在中村な
る貸しざしきに至りあま
たの娼妓をまねきよせ
軍中徒然をなぐさめん
と遊興数度に及びし
とぞ

柳々子仙果

錦絵の左上にある柳々子仙果による詞書

2枚目は「日向 宮崎ニテ賊將遊興図」と題された錦絵で、1枚目とは一変して西郷と桐野が政府軍が差し向けた巡査たちに捕縛されそうになる様子が描かれています。

地本問屋の御届印には「明治10年9月7日」とあり、制作時期は敗走した西郷軍がすでに鹿児島までたどり着いた後ということになります。人物描写や「賊將」という呼び方は1枚目と同じですが、2枚目の錦絵にはシャンデリア風のランプや雷文帯の絨毯などが描かれており、当時の風俗を伺い知ることができます。そしてこの錦絵の篠田仙果による詞書にも「宮崎在中村の貸座敷」という文字が見えます。

当時の画工や篠田仙果のような戯作者は東京にあってこの錦絵を製作したことを考えると、当時の中村の地は西南戦争の中で西郷軍駐屯の地として既知の場所であったと考えられます。



日向宮崎ニテ賊將遊興図

楊洲斎周延, 篠田仙果 // [文]『日向宮崎ニテ賊將遊興図』, 杉浦朝治郎, 明治10. 国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1307932> (参照 2025-02-26)

和漢ともに往古より豪傑と
称るる者酒色に耽るハ玃らし
からねど賊の巨魁西郷隆盛桐
野利秋ハ軍務の勞を散ぜん
と暇ある日ハ打ちつれて日向の國
宮崎在中村の貸座敷に至り
藝娼妓を集遊興を数度な
せしが官軍宮崎に進入し
一隊の巡査数十名中村なる
貸ざしきへ操こみ西郷桐野を
捕縛せんと八方を囲みなし隆盛
利秋辛くも其場を逃れしとぞ

篠田仙果記 ㊦

錦絵の左上にある篠田仙果による詞書

= 参考文献 etc. =

○ 国立国会図書館デジタルコレクション

* 本資料は福島良一氏の協力を得て作成しています。 *

【資料作成：宮崎市教育委員会文化財課 令和7年3月】